

24:1 アブラハムは年を重ねて、老人になっていた。【主】は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。

24:2 ア布拉ハムは、自分の全財産を管理している、家の最年長のしもべに、こう言った。

「あなたの手を私のもの下に入ってくれ。」

24:3 私はあなたに、天の神、地の神である

【主】にかけて誓わせる。私はカナン人の間に住んではいるが、あなたは、その娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。

24:4 あなたは、私の国、私の親族のところに行つて、私の息子イサクに妻を迎えなさい。」

24:5 しもべは彼に言った。「もしかしたら、その娘さんが、私についてこの地に来ようとしないかもしれません。その場合、ご子息をあなたの出身地へ連れて戻らなければなりませんか。」

24:6 ア布拉ハムは彼に言った。「気をつけて、息子をそこへ連れて戻ることのないようにしなさい。」

24:7 天の神、【主】は、私の父の家、私の親族の地から私を連れ出し、私に約束して、『あなたの子孫にこの地を与える』と誓われた。その方が、あなたの前に御使いを遣わされるのだ。あなたは、そこから私の息子に妻を迎えなさい。

24:8 もし、その娘があなたについて来ようとしないなら、あなたはこの、私との誓いから解かれる。ただ、私の息子をそこに連れて戻ることだけはしてはならない。」

24:9 それでもしもべは、主人であるアブラハムのもの下に自分の手を入れ、このことにつ

いて彼に誓った。

24:10 しもべは主人のらくだの中から十頭を連れて出かけた。主人のあらゆる良い品々をその手に携えていた。彼は立って、アラム・ナハライムのナホルの町へ行った。24:11 彼は夕暮れ時、水を汲む女たちが出て来るころ、町の外の井戸のそばにらくだを伏させた。

24:12 そうして言った。「私の主人アブラハムの神、【主】よ。どうか今日、私のために取り計らい、私の主人アブラハムに恵みを施してください。」

24:13 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出て来るでしょう。」

24:14 私が娘に、『どうか、あなたの水がめを傾けて、私に飲ませてください』と言い、その娘が、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言つたら、その娘こそ、あなたが、あなたのしもべイサクのために定めておられた人です。このことで、あなたが私の主人に恵みを施されたことを、私が知ることができますように。」

24:15 彼は夕暮れ時、水を汲む女たちが出て来るころ、町の外の井戸のそばにらくだを伏させた。

24:16 そうして言った。「私の主人アブラハムの神、【主】よ。どうか今日、私のために取り計らい、私の主人アブラハムに恵みを施してください。」

24:17 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出て来るでしょう。」

24:18 私が娘に、『どうか、あなたの水がめを傾けて、私に飲ませてください』と言い、その娘が、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言つたら、その娘こそ、あなたが、あなたのしもべイサクのために定めておられた人です。このことで、あなたが私の主人に恵みを施されたことを、私が知ることができますように。」

御心を聞いて踏み出さなければならないときがあります。イサクは結婚適齢期で、アブラハムは「そのうち…」とは言えない状況でした。ここに祈りのモデルがあります。

第一に、アブラハムは一番重要なことを求めていました。理想的の条件をいくつも挙げて、足りないところを見てしまい、決断できないということも多いのですが、彼は信仰の子孫という一番のものだけを求めていました。(その結果神様は他の面でも良い花嫁を与えてくださいました)

第二に、アブラハムとしもべという共同体の協力がありました。しもべはアブラハムから頼まれたのですが、その後の祈りからも分かるように、彼はそれを神様の御心として受け取ったのです。

第三に、御心を知る祈りです。ただ「...を与えてください」という祈りを繰り返すなら、「この数が多ければ聞かれるというのではない」という主イエスのことばを思い出す必要があります。私たちには聖書がありますからみ言葉が与えられます。

第四に、神のそれまでの導きを心に留めて忘れないことです。7節の証しのように。

①神のみこころは？②どんな思いになりましたか？③生き方にどう適用しますか？④何を実践しますか？